

第Ⅷ分野連絡会 議事録

○日時：2026 年 3 月 26 日（木）13:00～14:00

○場所：オンライン（Zoom）

○参加者（敬称略）：

- ・阿部慶太（日本大学）：地震工学委員会 副幹事長／第Ⅷ分野担当
- ・池尻 健（セントラル技研）：地下空間研究委員会 幹事長
- ・富尾祥一（構造計画研究所）：原子力土木委員会 委員兼幹事 *今回の担当

前回の連絡会の内容を振り返り、「委員会の連携」に関して情報交換が行われた。
以下に、主な内容をまとめる。

1. 今回の議事の確認

- ・各委員会間の連携の進捗状況の確認および今後の方針
- ・各委員会の主催行事の共有

2. 各委員間の連携の進捗状況の確認および今後の方針

（1）「液状化（地震工学×原子力土木）」に関する連携の報告

- ・現在作成が進められているガイドラインの発表の場について、土木学会全国大会の研究討論会とするつもり。申請済み。

（2）共通セッション「地震工学・地震災害（地震工学）」

- ・昨年と同じように、地震工学委員会と原子力土木委員会で共通セッションを立ち上げる予定。第Ⅷ分野の活動の一環として共同提案しており、申請が承認された。
- ・キーワードも昨年と同じで、150 編くらいは申請が来る。

（3）「リスクコミュニケーション（地下空間×原子力土木）」

- ・地下空間研究委員会は 5/31 までが今期の活動期間であり、今期の研究成果をまとめているところ。
- ・6/1 以降で改めて新しいテーマとして検討していくつもり。

（4）今後の委員会間の連携に関するフリーディスカッション

- ・共通セッションの立ち上げを拡大連絡会でディスカッションしてみると良いのではないか。双方から共通セッションの場に申請していく流れが作れる

と良い。キーワードの設定が重要。

- 例) 地下空間の耐震性 (地下空間×地震工学)
- 参考) https://committees.jsce.or.jp/zenkoku/gaiyo/ses_kyotu#12
- 地下空間研究委員会の地下空間シンポジウム (1/23) は 1000 人近くの多くの人が集まり、質の高い議論ができた。アンケートの中で地下空間研究委員会に求められる今後の取り組みを伺い、以下のような回答があった。
 - 新技術の活用と DX (AI/デジタルツイン/BIMCIM 活用)
 - 防災と災害対応 (ハ潮の速報や復旧状況、再発防止策)
 - インフラマネジメントと群マネ (老朽化対策、優先順位付けなど)
 - 他分野連携と空間利用 (上下水道、ガス、電気、通信などの連携・一元管理)
 - 社会情勢と法整備 (カーボンニュートラル、インフラ維持など)
- 例えば地下空間の耐震性という課題感が認知され、共通セッションにつなげることができれば、第Ⅷ分野の連携として盛り上がる。
 - 委員会間の課題感の深堀りから共通セッション化できると良い。
- 各委員会で立ち上がっている共通セッションの具体的な研究の内容を持ち寄って議論する場を、第Ⅷ分野の連絡会 (例えば拡大連絡会など) で設けてみてはどうか。
 - 次回の連絡会までに、この持ち寄って議論する方針について、各委員会で問題ないか確認する。

3. 各委員会の主催行事の共有

- 地震工学シンポジウム@熊本 (2026/11/26~28)
: https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/jees2026?mt=contents_not_found

4. 次回予定について

- 次回は「通常の連絡会」の形式 (オンライン開催) で「地震工学委員会」が担当し、2026 年 6 月で調整予定。

以上

(文責: 冨尾)